

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2026年8月
第66号
(年4回発行)

秋号

発行部数3千部



浄土宗 一問一答

シリーズ浄土宗／十夜法要 ～一夜より十夜がまさるということ～

実践教室／法事の意味と意義

お月見チャリティーコンサートのご案内

浄土宗一問一答

浄土宗の教えは、難しい言葉のようでいて、実は私たちの暮らしの中に自然と溶け込んでいます。たとえば、誰もが使う「十八番（おはこ）」という言葉。その背景には、阿弥陀さまの十八願という大切な教えがあります。

今回の一問一答では、そんな身近だけれど深い浄土宗の教えを、少しでも掘り下げてみました。



問 阿弥陀如来の願いは四十八願と聞きますが、その中で十八願が特に大切とされるのはなぜ？ そして「十八番（おはこ）」と関係があるというのは本当？

阿弥陀如来は、すべての人を救いたいという願いを四十八の誓い（四十八願）として立てられました。その中でも、浄土宗が最も大切にしてきたのが「念仏する者を必ず救う」という第十八願です。

「十八番（おはこ）」という言葉の由来には諸説あります。歌舞伎の「歌舞伎十八番」に由来するという説がよく知られていますが、阿弥陀さまの第十八願を「仏さまの真骨頂」と呼んだことに由来するという説もあり、江戸時代の僧侶が十八願を強調して説いたことから、「その人の得意技」という意味に広がったといわれています。

問 浄土宗の本尊・阿弥陀如来はどのような存在？

阿弥陀さまは、すべての人を救いたいと願い、無量のいのち（無量寿）と光（無量光）で私たちを包む仏さまです。

念仏する者を必ず浄土へ導くという十八願を成就し、迷いの中にある私たちを「そのまま来なさい」と呼び続けています。

浄土宗では、阿弥陀さまは遠い存在ではなく、念仏の声を通して「今ここ」ではたらきかけてくださる仏さまと考えます。

問 なぜ浄土宗は「念仏ひとすじ（専修念仏）」と言うの？

阿弥陀さまの第十八願に示されるように、「念仏する者を必ず救う」という誓いが浄土宗の中心にあります。

浄土宗の宗祖法然上人は『選択本願念仏集』で、多くの修行よりも、阿弥陀さまの本願にかなう念仏こそ往生の道であると明らかにされました。そのため浄土宗では、念仏をよりどころに歩むことを「専修念仏」と大切にしてきました。

問 念仏の回数は大事なの？ 一声でいいの？

往生の条件としては回数を問いません。十八願は「一声の念仏でも必ず救う」と誓っています。

しかし浄土宗は歴史的に、十万遍寺・念仏講・数珠での計算など、念仏を深める行々としての多念を大切にしてきました。

回数は「救いの条件」ではなく、念仏に親しみ、心を調えていくための実践として受け継がれてきたのです。

問 お彼岸は「悟りの世界（彼岸）」を思う期間」と言われるけれど、浄土宗ではどう受けとめる？

お彼岸は、仏教全体では「六波羅蜜（布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧）」を実践する期間として知られています。浄土宗でも、これらの善い行いは大切にされてきました。しかし浄土宗では、お彼岸を「阿弥陀さまの浄土を思い、いのちの行き先を心にとめる期間」として受けとめます。

ご先祖を偲ぶ心が、そのまま浄土へのご縁となる——これが浄土宗のお彼岸に込められた思いです。

問 浄土宗では、光明や来迎という言葉がよく使われますが、どういう意味ですか。

どちらも阿弥陀さまのはたらきを表す大切な言葉です。

光明とは、阿弥陀さまの慈悲が光となって迷いや苦しみを照らし、包み込むはたらきをいいます。念仏する時、その光に照らされている身であると理解されてきました。

来迎とは、いのちの終わりに阿弥陀さまが私たちを浄土へ迎えてくださるはたらきのことです。恐れではなく、安心のはたらきとして説かれています。光明は「今ここ」ではたらき、来迎は「いのちの終わり」ではたらき。どちらも阿弥陀さまの慈悲を表す言葉として、浄土宗で大切にされてきました。

問 お彼岸には善い行いをするとよい、と聞きますが、浄土宗ではどう考えますか。

浄土宗では、善行は往生の条件ではありません。

阿弥陀さまの慈悲に触れた人が自然と起こす「感謝の行い」として大切にしてきました。

お彼岸は日本で独自に育まれた仏教行事でもあり、ご先祖を偲びながら、身近な小さな親切を心にとめる時期として親しまれてきました。善行を義務としてすすめるというより、自然に生まれる思いやりを大切にす期間として受け継がれてきたのです。

「十夜法要」

「一夜より十夜が勝るといふこと」

秋になると、浄土宗の寺院で営まれる「お十夜」。

もとは旧暦十月五日の夜から十五日の朝まで、十日

十夜にわたって念仏を称える法要でした

現在では、寺院の事情に合わせて日数を

短くして修されることが一般的ですが、

その願いの深さは変わりません。



■室町時代——不安の時代に生まれた祈り

お十夜が始まったのは、飢饉・疫病・争いが続いた室町時代。人々は「願いの拠りどころ」を求め、天台宗の寺院である京都・真如堂で十日十夜の念仏修行が行われました。

■真如堂から光明寺へ——浄土宗のお十夜のはじまり

真如堂での念仏はやがて浄土宗にも伝わり、明応4年（1495）、光明寺の観誓祐崇上人が宮中で『阿弥陀経』を講義し、真如堂の僧とともに引声念仏を修したことから勅許を得て、正式な法要として広まりました。

■「一夜より十夜が勝る」という言葉

この表現は、『無量寿経』に説かれる一節に由来します。

「この世で十日十夜善行を行うことは、仏の国で千年善行をするより尊い」。

これは努力の量を比べるのではなく、その「かたちにならない願い」を、阿弥陀さまは深く受けとめてくださる。そのことを示すための比喩なのです。

■現代のお十夜

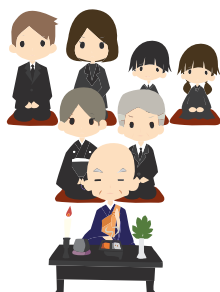
現在は一日法要や数日間の別時念仏として営まれますが、「阿弥陀さまの願いに感謝し、念仏を味わう」という核心は変わりません。

室町の人々が不安の中で託した願いと、今を生きる私たちの心は、実はそう遠くないのではないでしょうか。「一夜より十夜が勝る」とは、数字ではなく、はかれないほど深い願いに抱かれている」ということに、そっと触れさせてくれるのです。

法事の意味と意義

法事は、亡き方のためだけでなく、
今を生きる私たちが心を静かに見つめ
るひとときでもあります。

手を合わせることで故人とのつなが
りを思い起こし、仏さまの教えに触れ
ながら、家族や親しい人たちが集い、
いのちのつながり、をあらためて感
じるご縁となってきました。



法事は誰のため？

一般には「故人の冥福を祈るため」
と思われていますが、浄土宗では「念
仏のご縁をいただく私たち自身のた
め」という側面も大切にします。故人
を偲びながら、今の自分の生き方を見
つめる時間となります。

年忌法要のなりたち

年忌法要は、亡き方を節目ごとに丁
寧に偲び、ご縁を確かめるために営ま
れてきました。家族や親族が集い、故
人の歩みを語り合うことで、家の歴史
やつながりを受け継ぐ場にもなってい
ます。

一周忌の翌年が三回忌

年忌の数え方には特徴があります。
亡くなった年を「一回忌」と数えるた
め、一周忌（満1年）の翌年が三回忌
（満2年）となり、以後、
七回忌・十三回忌……と
続きます。

法要の日程

法要は、故人の命日をご縁として営
まれることが多いですが、ご家族が集
まりやすい日を選んでお勤めすること
も増えています。

最近では、皆が集まりやすいように、
命日に近い週末に行うご家庭も多いよ
うです。



暮らしの中の 仏教語

「観察」

夏が終わり、秋が近づくと、朝の空気が少し冷たく感じられたり、道ばたの葉が色づき始めたりと、ふとした変化に気づくことが増えていきます。

私たちは、こうした日々の小さな観察から、季節の移ろいを感じ取っているのかもしれませんが。

さて、この「観察」という言葉。仏教では「かんざつ」と読みます。それは、ただ目で見ただけでなく、心に向けて、ありのままを受けとめるという意味をもっているそうです。良し悪しを決める前に、まず“そうである”と気づくこと。そのまなざしこそが、仏教の「観察」の心なのではないでしょうか。



第17回 西願寺

十三夜お月見 チャリティーコンサートのご案内

今回の「十三夜お月見チャリティーコンサート」は、女性5人のサックスアンサンブル【SAX CATS (サックス・キャッツ)】の皆さんによるジャズの夕べです。ソプラノからバリトンまで5本のサックスだけで奏でる、美しく迫力のあるハーモニーが特徴です。お寺の本堂に響くサックスの音色で、深まる秋を一緒に楽しみませんか。

日時 令和8年10月23日(金) 18:00受付

場所 西願寺 本堂

参加費 1,000円

※参加希望の方は、西願寺までお気軽にお問合せお申込みください。



SAX CATS (サックス・キャッツ)



先日、親戚の法事の席で『まだ忌中だからね』と言われたのですが、喪中とはどう違うのかよく分かりません。何が違うのでしょうか。



忌中は、亡くなった日から四十九日法要までの期間を指し、昔から「特に慎んで過ごす時期」とされてきました。この間は、神社参拝やお祝い事を控えるのが一般的です。一方、喪中は忌中を含めた、亡くなってから一周忌までの期間のこと。故人を偲び、心を整えて過ごす時期で、年賀状を控えるなどの社会的なマナーが中心になります。

なお、浄土宗では「死は穢れ」という考えは持ちませんので、宗教的な“禁止”があるわけではありません。ただ、周囲の方への配慮として、昔からの習慣を大切にして過ごされるとよいでしょう。

参加ご希望の方は、お気軽にお問合せ・お申込みください。

西願寺 TEL. 048-925-1723 FAX. 048-925-1789

❖ 秋 彼 岸 会 🍎

葬祭フェア開催のお知らせ

9月20日(日)・21日(月)

場所…彩の都 あすま会館

当日は、会場で祭壇等の展示と葬儀についてのご相談やご質問をお受け致します。お気軽にお越しください。



9月20日(日)～9月26日(土)

彩の都メモリアルパーク

秋の合同彼岸会法要

日時 9月23日(水) 10:00～

場所 彩の都 あすま会館3階

彩の都メモリアルパークでは、上記日程で秋の彼岸会合同法要をお勤めします。是非、ご参列くださいますようお願い申し上げます。

彩の都メモリアルパーク 永代供養墓のご案内

■お便り募集■

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さん」編集部

東京都千代田区麹町一・三・一〇二

FAX 03(3265)1962 Mail: info@io-co.net

■次号予告

次号は令和八年十二月発行予定の「新年号」です。



永代供養墓「光明苑」



永代供養墓「華苑」

彩の都メモリアルパークでは、永代供養「華苑」「光明苑」「草加遊馬樹木葬墓地」のご案内をしています。お墓の跡継ぎのいない方や、これからのご自身のお墓に不安を抱えていらっしゃる方などにご好評を頂いております。



「草加遊馬樹木葬墓地」



◆編集後記◆

今年も、西願寺の大施餓鬼会の時期になりました。秋と呼ぶには少し早い気がする「さんが秋号」ですが、お寺の行事の都合で、今年もひと足早くお届けしています。

脳内を秋にして原稿を書いていると、ふと秋の夕暮れの色が頭に浮かぶ瞬間があります。そんな折、法然上人の和歌「月影のいたらぬ里はなけれども…」を思い出しました。

どんな場所にも、そしてどんな人にも、阿弥陀さまの光はそっと届いている——月の光にたとえられたそのやさしさを、秋の夜空は静かに教えてくれるようですよね。

さて、秋号では十三夜お月見チャリティコンサートのお知らせをしています、毎回ご住職が演目に頭を悩ませている中、今年はサックス演奏とのこと。月夜とサックスの組み合わせ、なんだかとても楽しみです。お寺の本堂でのコンサートが初めての方も、どうぞお気軽にご参加ください。

発行者／

遊馬山一行院 西願寺

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七七三

FAX 〇四八一九二五一一七七九

彩の都メモリアルパーク

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作／

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんが」編集部